大阪母子保健研究 16-24 ヶ月時追跡データの結果 妊娠中野菜、果物、抗酸化物質摂取と喘鳴及びアトピー性皮膚炎との関連

背景:抗酸化物質摂取の低下がアレルギーと関連しているのかもしれません。 妊娠中のビタミンE、亜鉛摂取が生まれた子の喘鳴/喘息に予防的であるという英米の報告があります。

方法:大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回と第2回追跡調査(生後16-24ヶ月時)に参加した763名を対象としました。ISAACの疫学的診断基準により喘鳴と湿疹(アトピー性皮膚炎)を定義しました。母親の年齢、妊娠週、居住地域、年収、両親の教育歴、両親のアレルギー既往、過去1ヶ月の食事変容、ベースライン時の季節、妊娠中母親喫煙、年上兄弟数、子供の性別、出生時体重、受動喫煙、母乳摂取及び第2回追跡調査時月齢を補正しました。

結果:妊娠中の緑黄色野 菜、柑橘類、βカロテン 摂取は有意に湿疹のリ スクを下げました。喘鳴 とは関連がありません でした。妊娠中のビタミ ンE摂取は、湿疹と関連 がありませんでしたが、 喘鳴のリスクを有意に 下げました。妊娠中の緑 黄色野菜以外の野菜、総 果物、りんご、αカロテ ン、ビタミンC、亜鉛摂 取は、喘鳴、湿疹とも有 意な関連を認めません でした。

緑黄色野菜摂取との関連						みかん摂取との関連				
	喘鳴		湿疹		喘喘			湿疹		
	リスク	補正オッズ比	リスク	補正オッズ比		リスク	補正オッズ比	リスク	補正オッズ比	
Q1 (27.6)	45/190	1.00	54/190	1.00	Q1 (-0.5)	45/190	1.00	49/190	1.00	
Q2 (54.9)	37/191	0.72 (0.43-1.22)	22/191	0.30 (0.16-0.52)	Q2 (15.2)	39/191	0.91 (0.54-1.52)	34/191	0.61 (0.36-1.02)	
Q3 (77.5)	43/191	0.90 (0.54-1.50)	34/191	0.53 (0.31-0.89)	Q3 (34.8)	43/191	0.99 (0.59-1.67)	31/191	0.57 (0.33-0.98)	
Q4 (125.8)	44/191	0.87 (0.52-1.45)	32/191	0.41 (0.24-0.71)	Q4 (87.1)	42/191	1.05 (0.62-1.78)	28/191	0.53 (0.30-0.93)	
p for trend		0.81		0.01	p for trend		0.79		0.03	
	カロテン摂取の	Ē	ビタミンE摂取との関連							
		喘鳴		湿疹		喘喘		湿疹		
(μg)	リスク	7 補正オッズ比	リスク	補正オッズ比	(mg)	リスク	補正オッズ比	リスク	補正オッズ比	
Q1 (1180.9)) 40/190	1.00	46/190	1.00	Q1 (6.1)	55/190	1.00	45/190	1.00	
Q1 (1180.9) Q2 (1923.9)			46/190 30/191	1.00 0.52 (0.30-0.89)	Q1 (6.1) Q2 (7.3)	55/190 33/191	1.00 0.53 (0.32-0.88)	45/190 28/191	0.58 (0.33-0.99)	
- ` `) 46/191	1.14 (0.69-1.90)	30/191							

p for trend

結論:妊娠中のビタミンE摂取は生まれた子の喘鳴に予防的であるのかもしれません。妊娠中の緑黄色野菜、柑橘類、 β カロテン摂取は湿疹に予防的であるかもしれません。

p for trend

出典: Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Hirota Y. Consumption of vegetables, fruit, and antioxidants during pregnancy and wheeze and eczema in infants. Allergy. 2010; 65: 758-765.